

## &lt;図・写真&gt;



## &lt;材料・製作方法等&gt;

- ①お湯まる（4個）を熱湯に3分浸してやわらかくした後、団子状にこね、一つの塊にする。
- ②表面温度に気をつけつつ、生徒の手の形に合わせて成形する。
- ③熱を取り去り、硬度が得られれば完成。

## &lt;ねらい&gt;

指のピンチ時、指先を正しく合わせるための第1・2関節の良好な屈曲を得られるよう、人差し指・中指の第3関節の屈曲をブロックする。

## &lt;指導方法・留意点等&gt;

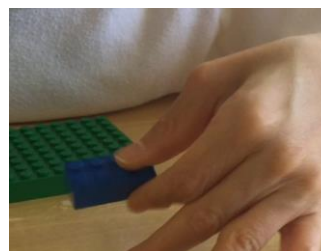
- ピンチを必要とする活動前に装着する。
- 親指と人差し指、親指と中指について、それぞれ指先を合わせる形を作ること、準備運動とする。
- 装着したままの状態、物を扱う活動に取り組む。
- 改善が見られれば装着しない状態で活動する。

## &lt;指導経過・成果・課題・展望等&gt;

対象生徒は様々な活動において全身に過剰な力が入りやすく、手指活動のような微細な動きや緊張と弛緩のバランスが求められる場面では、本人の思い通りの操作ができないことが多い。

右上写真は、レゴブロックを積む活動での1コマだが、一見うまく指先でつまみ取っているようであるものの、次の瞬間には親指と人差し指の強い力によってブロックはきりもみしながら飛んでしまう。

この様子から人差し指第3関節の強い屈曲が最大の要因だと判断し、このブロッカーを作ることにした。



## &lt;成果&gt;

右下写真はブロッカーを導入した最初の授業での様子であるが、第1・2関節がほどよく屈曲し、力も抜け、ブロックを飛ばしてしまうことなく、活動をやりとげることができた。数回の授業を経て、ブロッカー無しで、レゴブロックを飛ばすことなくスムーズに積み上げることができるようになった。

